

S I P 第 3 期「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 7 年 7 月 24 日

豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築

プログラムディレクター 松本 英三

今般、「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」においては、前回変更時点（令和 6 年 5 月）以降の研究計画の進捗、令和 7 年度の予算配分の決定等に伴い、社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更を行いたい。主な変更点は以下のとおり。

1. サブ課題 D（国産大豆等を利用した豊かな食設計システムの開発）の修正

食料安全保障に不可欠である食料自給率向上のため、サブ課題 A や C で進める大豆や魚の国内生産強化と併せた消費拡大のための行動変容を主たる研究目的とすることを、明確化した。

また、令和 6 年度末評価結果を踏まえ、本 SIP のサブ課題 D で開発するシステムを公開し、民間事業者が、本システムと民間で保有する個々人の健康診断情報データ等を組み合わせて、食生活改善の多様なサービス提供を行えるよう開発方針を改めた。それに伴い、「豊かな食設計システム」というサブ課題名を「豊かな食解析システム※」に変更した。さらにエグジット戦略として、システム公開方法および開発に伴う取得データの取り扱いを明記した。令和 7 年度は、大豆や魚に含まれる成分により改善が期待される「肌状態に応じた最適な食材提案」を題材とし、被験者の肌改善効果を目的としたサービスの概念実証に重点を置くこととした。

※本 SIP で整備した質の高い観察研究データや、農研機構が保有する機能性成分等の食品成分データ等を組み込んだデータベース、個々人の体調・嗜好・習慣等に応じた、最適な食材や栄養・機能性成分の解析・提案を行うエンジンを開発し、それらにより構成。

（以下、6 / 5 ガバニングボードで説明済み）

2. サブ課題 C（動物性タンパク質（水産物）の次世代養殖システム構築）の内容の修正、追記

ムーンショット型研究開発制度で、マダイの養殖において飼料中の魚粉の一部をミズアブ粉で代替しても成長に影響しないことを示した研究成果が得られている。本成果のブリ養殖へのスピナウトにより飼料の低コスト化が期待され、社会実装に向けた相乗効果が期待されることから、サブ課題 C においてブリの飼料としてミズアブ粉を活用して魚粉依存度を下げる課題に新規に取り組むこととした。

また、令和 6 年度の試験結果と、海上設備の敷設性、関連法令などを考慮し、早期の社会実装を見据えたコスト実現のため、沖合に設置する養殖システムにおける遠隔自動給餌システムの距岸に関する KPI を、沖合 5 Km から 3 Km に修正した。

3. サブ課題 E（行動科学のアプローチを用いた質の高い食生活の実現に向けた研究開発）の継続方針の修正

2024 年度末期限での条件付採択の研究として継続していたサブ課題 E については、下水汚泥堆肥等の最終製品が存在しており、早期の社会実装が見込まれるサブ課題 B 内で重点的に取り組むこととし、独立したサブ課題 E としての継続を中止した。

4. その他

各サブ課題について、社会実装を促進する観点からステージゲート時および終了時の BRL 等の XRL レベルを見直すとともに、本文およびロードマップ等を変更して反映した。

令和 6 年度の進捗状況と令和 7 年度の予算額を追記した。

以上